

WE, JOKERS

英語のジョークを楽しむ会会報

No.40 December 10, 2013

- ジョークの心得三か条:
1. ジョークは心のゆとりであり、人生の潤滑油です。
 2. ジョークで言語の壁に挑むのは知的快感です。
 3. ジョークは簡潔が至上です。



第40回研究発表会記念講演

笑いの底の言語文化

—日本語と英語の感覚—

宮本 倫好

ちょっと大きく振りかぶった題なので、料理仕立てにして、食べやすいように努力します。

まず**前菜**（地口・駄洒落、もじり）で、固い頭をほぐして下さい。

「老人は死なず、ただ増えるのみ」。ご存知、マッカーサーの上院証言「老兵は死なず。ただ消え去るのみ」のもじり。

以下同様です。「死なぬは亭主ばかりなり」は、「知らぬは～」ですね。

「妻を憎んで人妻を憎まず」は傑作です。「罪を～」がこうなると、思わずニヤリ。

「やもめのあなたの縁遠く」は、もちろんカール・ブッセの「山のあなたの空遠く」から。

他に「春嫁秋逃」「女の一生モウバァサン」「議員勝者の金の声、所業不浄の響きあり」「命短し、行為せよ乙女」「老婆は一日にして成らず」など。

以下は英語にして英語にあらず。ひねりを利かせた日本語なり。

You might think but today's hot fish. (言うまいと思えど今日の暑さかな)。

Sunday is not today. (駿台は東大ではない)。

Thinking highway. (心筋梗塞)。

Today I am, are you. (今日私、あれよ)。

Honey made ice tea. (骨まで愛して)。

Bus stop. (モンローの映画から「ブスは乗るな」)。

これで Oh, see my death. (おしまいです)。

次は、**スープ**（数、品詞、性、主語）になります。

(1)「閑け(か) さや岩にしみ入る蟬の声」

(2)「古池や蛙飛び込む水の音」

(3)「枯枝に鳥のとまりたるや秋の暮」。



いずれも芭蕉。英訳では主語は単数か複数か、迷うそうです。

(1) では米作家 Arthur Binard は単数に、英日本研究家 Reginald Bryth は複数に。日本では「油蟬(茂吉)か、ニイニイ蟬(小宮豊隆)か」で大論争になる。

(2) では子規の英訳は単数で、日本人の感覚でしょう。でもラフカディオ・ハーンは複数で訳しました。単か複かで描く世界はくっきり分かります。

(3) 真跡画賛(作者が余白に書く)では、群飛する7羽、枯れ枝に1羽。後年の自画幅には1羽だけ。日本人は対象を凝視し、単複はそう

問題ではない。

gender で、月は独語では男性、英語では女性。独スパイが月を見て「彼は美しい」と述べ、英国でばれて捕まった話がありますが、名詞に性別がない日本は気楽です。

川端康成著『雪国』の有名な書き出しは「国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。夜の底が白くなった」ですが、抜けたのは何か明白ではない。(Sidensticker の次の名訳を得てノーベル賞になりました。

The train came out of the long tunnel into the snow country. The earth lay white under the night sky.

日本語は全体の流れが大事で、個々の表現はあいまいですが、これですっきり明瞭ですね。

日本語は抽象的な表現を好み、動詞が主役で、文脈依存、情緒、余韻、非論理性が特色。英語は具体的、説明的で、能動表現を好み、名詞が主役。特に「ものどもの関係」が重要です。

次は**魚料理** (古川柳) です。ここでは日本語の味の深さを楽しみましょう。谷崎潤一郎は「含蓄」が日本語のすべてだと言っていますが、俳句や川柳ほど含蓄に富んだ文芸は世界にないでしょう。特に川柳はユーモアを含蓄するのです。

「赤旗を前垂れにする下関」(壇ノ浦で平家の女官は多く遊女になった)。



「どちらでも芳吉

(よしよし) と行くどら和尚」(芳は男色の芳町、吉は吉原。この和尚は両刀使いでした)。

「親父まだ西より北へ行く気なり」(西は西方浄土。北は吉原。鼻血ブーの親父は息子迷惑)。

地名に意味を持たせるは川柳の常です。例えば相模女は好きもの、伊勢屋はケチ、信州者は大食。英語でもスコットランド人、ユダヤ人はケチ、イタリア人は暴力的。またポーランド人

はバカと相場が決まっています。

「押入でこの下駄誰だと聞いて居る」(下駄のことを問い糺しているのは、突然帰宅した主人。押し入れに隠れた間男がこのやり取りを聞いている場面を、主語抜きで見事に表現)。

「庚申はせざるを入れて四猿(しざる)なり」(「見ザル、聞かザル、言わザルは嫁の心得でしたが、この三猿にもう一匹加わる。庚申(かのえさる)の日にセックスすると盗人が生まれると信じられ、石川五右衛門が好例とされました。そこでその日には「せザル」と慎んで四匹に)。

「道長は現世蘆生は寝て栄華」(宮廷政治を思いのままにした藤原道長。「この世をば我が世とぞ思ふ望月の欠けたることもなしと思へば」の歌で有名。一方、蜀の国の若者の蘆生。官吏の試験に落ちガックリしていたところ、邯鄲で道士から栄華が意のままになる枕を貸してもらった。夢の中で栄華を極めます。しかし覚めると、眠る前の粟飯はまだ煮終わっていない。実に味わい深い。「邯鄲の夢」「一睡の夢」の語源です)

「明示しない」は日本文の極意で、川柳はその極致です。

「退院の身となり女匂わせる」。女の前で切るか後ろで切るか、で意味は大きく違います。前者は「香らせる」、後者は「ほのめかす」。

西欧でも、ブルーチーズを鼻先に差し出したジョセフィーヌに、ナポレオンが「今夜はだめじゃ」と言った例がありますが、川柳の深遠さには遠いようです。

次にメインの**肉料理** (riddles) に。背景知識が求められることは英語も同じです。

Why should taxicab drivers be brave men?
Because none but the braves deserves the fare. (英詩人ジョン・ドライデンの「一人勇

者のみ、佳人 (the fair) に値する」が下敷き。運転手だから fare に。None but the braves deserves affairs (情事) はもっと面白い。

What did a cigarette lighter say when it had failed to light a cigarette? The spirit is willing but the *flash* is weak. (マタイ伝: The spirit is willing, but the *flesh* is weak. 「心は勇めども、肉体が弱くては何もできない」から。spirit にはアルコールの意味もある。聖書の文章を英露自動翻訳で往復すると、“The vodka is fine, but the beef is no good.” となって返ってきたそうです。

What did a cake say to a pretty girl? You can't eat your cake and have it too. (諺・You can't eat your cake and have it too. 「菓子は食えば、なくなる」と意味ですが、pretty girl が入った本文の it は色気を意味し、それが台無しなるということ)

Why do they call her After-Dinner Speaker? Because if she speaks to you, she's after the dinner. (日本語で言うテーブル・スピーチにかけていますが、最後の節の after がポイントで「求める」の意。例・He looks after fame.)

次は **デザート** (回文、palindrome) をお楽しみ下さい。前から読んでも後ろから読んでも、同じ発音になるのが回文です。

“Madam, I'm Adam.” (人類史上初の palindrome と言われます。何しろ、アダムがイブに自己紹介した場面ですから)。

A man, a plan, a canal: Panama. これは英語の回文で、最高傑作の扱いです。「人あり、計画あり、運河ができた。パナマだ」というのです。

他にも、“Was it a car or a cat I saw?” A Santa lived as a devil at NASA. “Rise to vote, sir” などがあります。

しかし、回文は何と言っても日本語が断然華麗です。漢字、仮名を組み合わせた表現の多様

性は見事です。

次の七五調の回文で納得されるでしょう。「長き夜の遠の眠りのみな目覚め波乗り船の音のよきかな」。

最近の例で拾ってみました。「草の名は知らず珍し花の咲く」「桃の木のならば折るな軒の桃」「草くきの葉に降る霜に見やるなる闇にもしるう庭の菊咲く」。愛好クラブが各地にあるようです。



いよいよ **コーヒーまたはお茶** (映画題名の和訳) です。思いつくままに幾つか。

The Man Who Cried → 耳に残るは君の歌声
Guess Who's Coming to Dinner → 招かれざる客

Love Me If You Dare → 世界で一番不運で幸せな私

An Officer and a Gentleman → 愛と青春の旅立ち

Butch Cassidy and the Sundance Kid → 明日に向って撃て!

To Sir, with Love → いつも心に太陽を
Bonnie and Clyde → 俺たちに明日はない
42 → 世界を変えた男 (42 は黒人初の大リーガー、ジャッキー・ロビンソンの永久欠番背番号です)。

英語は簡潔でそっけないが、日本語はタイトル訳にも情感重視ですね。

コカコーラのコマーシャルは、米では “Drink Coka-Cola” なのが、日本では「スカッとさわやかコカコーラ」になりました。言語文化の基本的な差ですね。さらに漢字は視覚中心 (同音異義語多い。例・こうしょう 50 語) ですが、英語は聴覚中心です。

最後は付け足し、いわば**刺身のつま**に **toilet scribbles** を選んでみました。

文章を練るに最適の場所を昔から「三上」といい、馬上、枕上、廁（し）上です。「雪隠は至極の文の読み所」という川柳もあり、火野葦平は名作『糞尿譚』を廁で発想したそうです。

だからトイレは大体下品な落書きが多いのですが、思わぬユーモアを生む場所でもあります。



日本語の最高傑作は、早稲田大学のトイレにあったという「人は人の上に人を乗せて人を作る一大隈重信」でしょう。

これは慶応の創始者・福沢諭吉の「天は人の上に人を作らず～」に対抗したもじりです。早慶いずれが偉大か。ユーモアセンスでは早ですね。



英語では、

A sign in a gas station urinal: Gentleman, in our effort to make the place hygienic as possible, please come closer. Yours is not so long as you may think."

を挙げてみます。

日本でもそっくりの表示がありますが、最後の一文が利いていますね。long とか strong とかは、深層心理学的に、男性の強い願望を表すそうです。

もうひとつ、やや宗教的偏見に満ちていますが、これも世相でしょう。

I am disgusted the US Army allowed its troops to burn copies of the Koran. What a complete waste of perfectly good toilet papers!



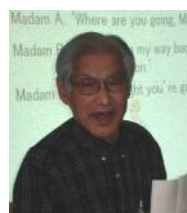
☠独断と偏見で作品を読み解く☠

第20回ジョーク・コンテスト MC の記

山崎 雍一

第20回 JLC は11月16日開催され、出席者20名、出品数22、入賞は添付別紙のとおりであった。一人3票まで投票可能なので、第一回目は有効投票数49、棄権票11、第二回目は有効投票数60で棄権票は無かった。棄権票も立派な1票であり、優良作品が見当たらないとの判断であれば、棄権票によってその旨意思表示しても一向に構わないと思う。

さて本題にはいりましょう。There is one thing women can never take away from men. We die sooner.



私はこれを読んだとき圧倒され、優勝作品はこれしかないと思った。満場一致で全員が投票すれば40票獲得する筈である。それなのに総投票権数120票のうち僅か3票しか獲得出来ていない。

しかもその内の2票は私が投票したものである。ここに私は自分のジョーク感覚が如何に皆さんのそれから乖離しているかを深く自省し愕然とした次第です。

以下何故私がこの作品に惚れ込んだかを本稿の趣旨からやや逸脱するかも知れませんが記す事をお許し下さい。

男とはアダムとイブの時代から女に与える事に喜びを見出してきた存在でした。ご存知のこんなメロディーが去来します。「I'll give to you a Feathery bed with downy pillows for your head, if you will marry me, me, me, if you will marry me.」。こうして生涯惜しみなく与えてきた男がある日突然気がつくので

す。「俺は与えて来たのではなくて彼女に奪われて来たのだ！俺が作ったと思っていた子供や孫までもが今や全て皆彼女の物になってしまっているのではないか！」単なる「take」ではなくて「take away」であり「奪い去る」のであって、もう戻っては来ないのだ。この「Away」が効いています。

しかしそんな男にもたった一つだけ彼女たちがどうしても奪う事の出来ない「物＝概念」が永久に存在する事に思い当たります。単なるCannotではなくてCan Never take awayです。それが「男の最後の砦」「先に死ぬ権利」です。男と女は平均寿命が違うのです。

ここで平凡に文脈を辿るなら「Men die sooner」と三人称で受けるのが穏当な筈ですが、原文では「We die sooner」と一人称です。三人称では迫力に欠けます。この「We」が素晴らしい。男たちはみんなで肩を組んで「なあ俺たちは先に逝こうぜ、お後はよろしくね」と言っています。

ご存知チャーチルのユーモアを思い出します。英国初の女性議員ナンシー・アスターに、「もし私があなたの妻なら、あなたに毒を盛るでしょう」と言われ、「もし私があなたの夫なら喜んでその毒を飲むでしょうな」と切り返します。(英文省略)

そこには死ぬことによってしか勝利を確信出来ない男の悲哀と矜持が万国共通の理念として共有されているではありませんか。借金があるかもしれないし、財産があれば相続で内輪もめするかもしれない、子や孫に心配事があるかもしれない。そんなゴタゴタの後片付けはすべて「よろしくね」という訳です。以上はジョークと言うよりも箴言に近いものかも知れませんが私の勝手な感想です。

今回は他にも多くの傑作をご出品頂きありがとうございました。またMCとして十分に解説できなかった作品もありお詫び致します。

第41回研究発表会のご案内

会員各位のご参加をお待ちします。まだ会員になっておられない方もどうぞ。

- 日時：2014年1月18日(土)
14:00~16:00
- 会場：日本近代文学館(2階会議室)
(東京都目黒区駒場4-3-55、駒場公園内)
電話：03-3468-4181
- 交通：京王井の頭線「駒場東大前」駅(渋谷駅から二つ目)徒歩7分。地図は、「日本近代文学館」のHPをご検索ください。本館は目黒区の施設である広大な「駒場公園」の中にあり、道に迷うこともあるかも知れません。その場合は、ご遠慮なくお電話をしてお訊ねください。
- プログラム(総合司会=豊田一男会員)
 - ① QUESTION BOX からの挑戦
出題&MC=深澤満穂 会員
 - ② 2013年間 MVP 表彰式
MC=安藤雅彦 会員
 - ・表彰の対象者は、各回の研究発表者全員および、各回のジョーク・コンテストの最優秀賞 and/or 大波賞獲得者です。
 - ・副賞として〇〇万円が当たる可能性のある宝くじを贈呈いたします。
 - ③ 初笑いショート・スピーチ
MC=新堂陸子 会員
3分間程度の愉快的な小話をご用意ください。テーマは英語でも日本語でもどちらでも結構です。
- 参加費：会員・非会員とも1,000円
(例年のような、美酒やご馳走は用意されません。)
- 連絡先：jlcweb-renraku@eigojoker.com

WE, JOKERS No.40

英語のジョークを楽しむ会 (Joke-Loving Club) 会報

発行日：2013年12月10日

発行人：世話人代表 宮本倫好

編集人：佐川光徳

問合せ先：jlcweb-renraku@eigojoker.com

